

はじめに — 早く見つけて、早く治療するに限る

医療の進歩により、がんにかかっても克服する人は年々増え、「がん=死」というイメージはなくなりつつありますが、例外の1つが「肺がん」です。見つけにくい上、進行が早く、転移もしやすいため、症状が出てきた段階では手の施しようがない場合も少なくありません。そのため難治がんの一つに挙げられています。肺がんから命を守るためには「早く見つけて、早く治療する」に限ります。

日本人の死亡原因として最も多いのががんで、死亡者の3人に1人、年間約35万7000人が亡くなっています（2011年現在）。その約20%を占め、がん死亡者数の1位を続けているのが肺がんです。死亡者は年間約7万人（男性約5万人、女性約2万人）にのぼり、その数は増え続けています。

肺がん患者は他のがんに比べ、喫煙者の割合が多いのが特徴です。日本では1950年頃から紙巻きたばこの消費量が伸び始め、1950年に年間販売本数が約653億本だったのが、1996年にピークを迎え約3483億本になりました。それ以降減ったとはいえ2011年には1975億本販売されました。

一方、1960年に5000人だった肺がんによる死亡者は、2011年には14倍の約7万人となり、たばこの普及と肺がん死の増加が関連しているのは明らかです。現在、禁煙していても過去に喫煙経験がある人も安心できません。特に10代から吸っていた人は要注意。立ち上る煙や喫煙者の吐き出した煙を吸っている受動喫煙者も例外ではありません。

本冊子では、どうしたら肺がんから命を守ることができるのか、わかりやすく解説します。